

1 はじめに

本校の特別活動部ではこれまでの実践を見直しながら、望ましい人間関係を育むための特別活動の在り方を模索してきた。特に児童会活動の中心となる計画委員会においては、本校の課題解決や学校の活性化を図るための手立てについて話し合い、実践を行ってきた。

2 資料

(1) めあての作成

今年度の計画委員会では、4月に「スーパー元気で楽しすぎる学校にしよう」というスローガンを立てた。学校が楽しく安心できる環境であるための実践目標を学級で考え、昇降口に掲示した。児童が目に見える場所に掲示することで、一人一人の意識を高めるとともに、学校全体として「温かな」という雰囲気高められた。

(2) 縦割り班活動

全校児童を縦割りの8班編成でグループ分けして、様々な学年の児童と触れ合える機会を設定した。6年生から班長、5年生から副班長を立て、高学年児童が中心となり計画や準備・運営を行った。活動内容は、計画委員の児童が計画委員だよりを作成したり、放送したりすることで全校児童に周知するなど、児童が主体となって取り組んだ。

ア 縦割り遊び

月に1回程度、班長副班長が中心となり活動計画を立てた。活動後には振り返りの時間を設けることで、回数を重ねるごとによりよい活動になった。

イ 縦割り清掃・奉仕作業

学期末や運動会前には、学校をきれいにしようと清掃や奉仕作業を行った。1年生と6年生、2年生と5年生、3年生と4年生がペアになり、上級生が清掃の仕方を教えながら取り組んだ。



(3) 異学年交流遊び

「学年関係なく仲がよい」という小規模校のよさを生かしながら、楽しい学校生活を味わえるようにするために、異学年（2つの学年）による交流遊びを行った。上級生は下級生が楽しめるように学級で話し合い、計画や準備・運営を行った。

3 成果と課題

児童数が182名と小規模校である本校では、学年を越えて仲がよく、お互いを知っているというよさがある。

そのよさを生かしつつ、さらに縦割り班活動を取り入れたことにより、今まで以上に結びつきが強くなり、全校児童の仲がよい、温かい雰囲気の学校をつくることができたことが1つ目の成果である。また、下級生にとっては、上級生に温かく接してもらうことで「学校が楽しい」と感じることができ、上級生にとっては、思いやりの心や上級生としての自覚を高めることができたことも成果として挙げられる。

課題としては、教師が主導で行った活動が多くあったことだ。コロナ禍のため今まで様々な活動が制限されていたので、児童の中でイメージができなかったのだと感じた。教師側が広く豊かな視野をもち、工夫改善に努めていきたい。